

琵琶湖博物館の定期生物環境調査で 外来種の害虫・ニュウハクシミとみられる個体が見つかりました

概要

- ・令和7年11月14日(金)の琵琶湖博物館内における定期生物環境調査の際に、外来種の害虫であるニュウハクシミとみられる個体が見つかりました。
- ・滋賀県において、これまでに本種の報告事例はなく、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所に同定を依頼しています。
- ・ニュウハクシミは、紙に加害する外来種の害虫であり、強い繁殖力を持つことが危険視されています。
- ・琵琶湖博物館の資料への被害は確認されていません。
- ・琵琶湖博物館では、本種の駆除作業と繁殖防除対策を進めています。
- ・ニュウハクシミは紙や衣類を食べますが、人間に直接的な害はありません。

経緯

発見日：令和7年11月14日(金) 午前

場所：琵琶湖博物館地下収蔵庫空間廊下、企画展示室、機械室の3か所(各1匹)

経緯：館内における定期生物環境調査(年3回実施)の際に、害虫トラップの中から職員が本種とみられる個体を見つける。本調査の委託業者から、ニュウハクシミである可能性が高いことの報告があり、東京文化財研究所に同定を依頼した。

対応策：発見箇所周辺や展示室を含めた広域を清掃し、展示ケース内には防虫蒸散剤を設置した。また、東京文化財研究所から無料提供された防除用キットを設置し、経過観察中。現時点でニュウハクシミとみられる個体は、新たに発見されていない。

ニュウハクシミについて(東京文化財研究所ホームページより抜粋)

ニュウハクシミ (*Ctenolepisma calvum*)

食害、糞汚染により、紙資料を加害する害虫。単為生殖^{※1}を行うことが明らかとなっており、繁殖力が高いため、一度個体数が殖えると完全に駆除することが困難である。また、1個体からでも繁殖が可能のため、博物館資料や梱包資材等に付着し、資料の移動に伴って分布域を拡大していると考えられる。

分布域は、日本で初めて報告された令和4年(2022年)には5都道府県であったが、令和7年(2025年)9月末時点では19都道府県となっており、拡大傾向にある^{※2}。

※¹ オスがいなくてもメスだけで繁殖できる生殖方法

※² 滋賀県の周辺府県では、岐阜県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県などで報告されている。

詳細は、東京文化財研究所ホームページをご確認ください。

https://www.tobunken.go.jp/ccr/pest-search/species/Zygentoma-silverfish/nyuhaku_shimi/nyuhaku_shimi.html